



グローバルPBL体験談

実施年度	2020年度
プログラム連番	175
実施形態	オンライン
担当教員	情報工学科 福田浩章先生 電子情報システム学科 三好匠先生 電子情報システム学科 山崎託先生
実施期間	2021年2月22日～3月9日
実施協定校	ドンア大学(ベトナム) UCSI大学(マレーシア) マレーシア・日本国際工科院(マレーシア) 明志科技大学(台湾) 慶北大学校(韓国)

参加学生体験談（要旨）

情報工学科	2年生	最初は外国の人はどんな価値観を持っているのかやどんなことを考えてるのかがわからずに少し接しづらいかもしいないと思っていました。しかし話しかけると、しっかり私の拙い英語を聞こうと耳を傾けてくれたり、わからない時にいろいろな資料を提案してくれたりなどみんなとても優しくかったです。
情報工学科	2年生	海外の学生は日本の学生に比べスキル、自主性を持っている人が多く、いい刺激と経験を得ることができるのではないかと思います。英語はあまり上手に話せませんでした。サーバーサイドを担当した際、アプリ側とラズベリーパイ側・また両方と連携を取りながら作るため、Slackなどのチャットを利用することで、最後まで実装することができました。うまくいかなかった点もいろいろありましたが、それも含めていい経験になりました。
情報工学科	2年生	4カ国のグループメンバーは、全員が同じアニメを見ていたので話が合ってアイスブレイクがうまくいったよかったです。中でもコミュニケーション能力が一番高い優秀な学生が、一人一人のできることに応じて役割分担をしてくれたおかげで初日からスムーズに作業に取り掛かることができました。私はArduinoのコーディングとESPの配線を担当しましたが、自分の役割は果たすことができたので良かったと思いました。
電子情報システム 学科	3年生	今回参加したPBLはオンラインでの開催だったので、Zoomを用いて話し合いをする際は、対面の時のようにアイコンタクトや身ぶり手ぶりだけでは伝わりにくいという難しさがありました。その中で集中して相手の言葉を聞いてみたり、文章に書いてもらってチャットで送ってもらうことでうまくコミュニケーションをとりながら進めることができました。このような新しい環境の中で自分なりの方法を考えて進めるのは今後にも必要になってくる力だと思うので参加してよかったです。

参加学生体験談（要旨）

電子情報
システム
学科

2年生

本プログラムに申し込んだ理由は、2つあります。1つ目は、来年度後期のセメスター留学の練習をしておきたいということです。1年次にベトナム短期留学以来、英語でコミュニケーションの機会がほとんどなく、いきなり半年留学に行くのは不安だと思い、今回のgPBLに参加しました。2つ目は、プログラミングの経験を積むためです。私は大学に入ってからプログラミングを始め、嫌いではないのですが苦手意識がありました。そこで経験を積むことが苦手意識の改善に少しでもつながればと思い、参加を決意しました。

本プログラムを通じて技術的な面では、Python、サーバープログラミング、Androidアプリケーション開発、Arduinoの使用方法などを学びました。ほとんどのことが初体験で戸惑いもありましたが、自分で調べたりグループのメンバーと教え合ったりしながら、何とか理解していくことができました。その他の面では、やはり英語でのコミュニケーションについて学ぶことが多かったように思います。オンライン開催ということで、さまざまなツールを用いて英語でコミュニケーションを取る練習ができました。

プログラムを終えて振り返ってみると、全てにおいて自分の力不足を痛感させられる約2週間でした。しかし、それは決してマイナスなことではないと私は考えています。海外の学生は、本当に学習意欲があって積極的で、自分にはないものをたくさん持っていると感じさせられました。感心したのと同時に、本当に悔しかったです。しかし、このまま圧倒されて終わってしまうのではなく、彼らと互角に渡り合えるように自分も変わっていこうと思います。

私は今回のgPBLに必要とされる技術をほとんど学んだ事がなく、最初は参加をためらっていました。実際参加してからも、自分の能力の低さに絶望することもありました。しかし、全てを終えた今それも含め、本プログラムに参加したことで得られた貴重な財産であると思います。先生方をはじめ、このような機会を与えてくださった方々に感謝しかありません。本当に有り難うございました。

gPBLで学べることは、技術や知識だけではないと思います。参加を迷っている方は、ぜひ勇気を振り絞ってチャレンジしてほしいです。